

□ 口頭発表

I 発表要領

1. 会場入り

前演者の開始時には「次演者席」にご着席ください。

2. 発表資料

研究発表に関する資料配付を希望される方は 100 部ご用意いただき、会場入口の机の上に置いてください。また、資料には「発表番号」、「演題」、「氏名」、「所属」を必ずご記入ください。

3. PowerPoint

(ア) 発表に使用するパソコンは事務局で用意したものを使用してください。なお、会場で使用されるパソコンへのデータ移行ならびに動作確認は以下の時間をお願い致します。

6月18日(日) 8:00~9:00 12:00~13:00 <各会場にて>

(イ) 大会会場に設置するパソコンは Windows10 で、Microsoft Office2013 がインストールされています (PowerPoint2013 含む)。

(ウ) Mac あるいはその他の Windows OS で作成されたものは、レイアウトのズレやアニメーションに不都合が生じる可能性があります。

動作確認の際には、データをデスクトップ上にコピー保存してください。(発表終了後、事務局で削除します。尚、ファイル名は「会場-番号」(例:A-1)として下さい。

4. 発表時間

(ア) 各演題とも発表時間 12 分、質疑応答 3 分、計 15 分とします。(1 鈴 10 分、2 鈴 12 分、3 鈴 15 分)

(イ) 各セッションにおいて全ての演題の発表終了後、コミュニケーションタイム(セッション全体を通してのディスカッションの時間)を設けます。発表終了後、セッション終了まで退室せずに、質疑応答およびディスカッションにご協力ください。

5. その他

使用機材等についての変更、質問等がございましたら事務局へご連絡ください。

II 座長へのお願い

(ア) 担当セッション開始 10 分前までに会場に入り座長席にお座りください。

(イ) アナウンスは行いません。時間になりましたら座長席で「セッションとご自身の紹介」の後、演者の「演題名」「施設名」「氏名」を紹介して発表を始めてください。

(ウ) セッションの進行については時間の厳守をお願いします。

(エ) 各セッションの最後に「コミュニケーションタイム」を設定しています。有益な時間となるよう進行をお願いします。

## ポスター発表

### 1. 発表方法

- (オ) 本大会では発表者の発表時間を設け、その時間内での質疑応答を行います。進行役等の座長は設けず、発表者と質問者で自由に討議する形式とします。
- (カ) 発表者は、発表時間内においてポスターの前に在席してください。
- (キ) ポスター発表の資料は原則としてポスターによるものとしますが、補足資料が必要な場合には配布プリント（100部）をご用意ください。配布は発表者が行ってください。

### 2. ポスターの展示と撤収について

- (ア) 発表会場に発表番号を記した展示スペースとセロハンテープを用意します。発表者は6月18日（日）8：00以降、センター棟401に展示してください。
- (イ) ポスター発表用の展示スペースはA0サイズ（約縦180cm×横90cm）です。特別な規定はありませんので自由に展示してください。
- (ウ) 発表後の撤収は6月18日（日）16：00までをお願いいたします。それまでに撤収されなかったポスターは大会事務局で撤収・処分します。

## 実践報告

### 1. 発表方法

- (ア) 本大会では発表者の発表時間を設け、その時間内での質疑応答を行います。進行役等の座長は設けず、発表者と質問者で自由に討議する形式とします。
- (イ) 発表者は、発表時間内においてポスター等の前に在席してください。
- (ウ) 掲示の方法はポスター、写真、ノートPCディスプレイ、プロジェクター投影など、各自で選択してください。
- (エ) 実践報告の資料は原則として掲示によるものとしますが、補足資料が必要な場合は配布プリント（100部）をご用意ください。配布は発表者が行ってください。

### 2. 展示と撤収について

- (ア) 発表会場に発表番号を記した展示スペースとセロハンテープを用意します。発表者は6月18日（日）8：00以降、センター棟401に展示してください。
- (イ) ポスター発表用の展示スペースはA0サイズ（約縦180cm×横90cm）です。特別な規定はありませんので自由に展示してください。
- (ウ) プロジェクター投影や実演などを行う場合は、各自の展示スペースの範囲内で行ってください。
- (エ) ノートPCディスプレイ、プロジェクター投影に必要な機器（スクリーン、プロジェクターなど）はすべて発表者が用意してください。各自で用意された機器類はご自身で管理してください。電源の延長ケーブルは大会事務局で用意します。上記機器等を使用される場合は事前に事務局までご連絡ください。
- (オ) 発表後の撤収は6月18日（日）16：00までをお願いいたします。それまでに撤収されなかったポスターは大会事務局で撤収・処分します。

# 研究発表（口頭/ポスター）・実践報告 スケジュール

研究発表Ⅰ（口頭形式） 6月18日（日）9:00～12:00 センター棟 402・403・405

研究発表Ⅱおよび実践報告（ポスター形式）

6月18日（日）10:00～11:30 センター棟 401

研究発表Ⅲ（口頭形式） 6月18日（日）13:30～15:30 センター棟 402・403・405

## 研究発表Ⅰ〈口頭発表〉 6月18日（日）9:00～12:00

### A会場：センター棟402

		演題(発表題目)	発表者	掲載頁	座長
9:00 ～ 9:15	A-1	長期寄宿体験における不安が児童の生きる力に及ぼす影響	○瀧直也・平野吉直(信州大学)、本村明夏(国立日高青少年自然の家)	22	伊原久美子 大阪体育大学
9:15 ～ 9:30	A-2	70日間の長期寄宿体験が及ぼす教育的効果-児童の行動変容プロセスに着目して-	○本村明夏(国立日高青少年自然の家)、平野吉直・瀧直也(信州大学)	24	
9:30 ～ 9:45	A-3	冒険教育プログラムにおける不登校生徒の身体性回復のプロセス	○吉松梓(新潟医療福祉大学)、坂本昭裕(筑波大学)	26	
9:45 ～ 10:00	A-4	野外教育における東日本大震災復興支援の今後 -心身の影響について5年間の継続調査の結果から述べられること-	島貫織江(国立花山青少年自然の家)	28	
10:00 ～ 10:15	A-5	青少年教育施設における家庭教育支援の可能性に関する一考察 -国立花山青少年自然の家における実践を例に-	○庄子佳吾(国立花山青少年自然の家)	30	
10:15 ～ 10:30	コミュニケーションタイム(セッション全体を通しての質疑応答・ディスカッション)				

10:45 ～ 11:00	A-6	ASEを体験した参加者が得た気づき	○田淵洋勝(大阪体育大学大学院)、伊原久美子(大阪体育大学)、高橋宏斗(大阪体育大学大学院)、久田竜平(大阪体育大学)	32	福富優 至学館大学 短期大学部
11:00 ～ 11:15	A-7	いばらきASEイニシアティブプロジェクトによるASEプログラムの効果	○山崎英男・金子典子(茨城県立さしま少年自然の家)、岡村泰斗(backcountry classroom Inc.)	34	
11:15 ～ 11:30	A-8	アサーショントレーニングと野外活動の関係性	○中本貴規(鳴門教育大学大学院)、南隆尚(鳴門教育大学)	36	
11:30 ～ 11:45	A-9	野外教育活動の構造分析法 - 活動場面における学びから -	○大石康彦、井上真理子(森林総合研究所多摩森林科学園)、田中千賀子(武蔵野美術大学)	38	
11:45 ～ 12:00	コミュニケーションタイム(セッション全体を通しての質疑応答・ディスカッション)				

### B会場：センター棟403

		演題(発表題目)	発表者	掲載頁	座長
9:00 ～ 9:15	B-1	クルト・ハーンにおける「教育」についての検討 -アウトワード・バウンドに焦点を当てて-	○西島大祐(鎌倉女子大学短期大学部)	48	遠藤知里 常葉大学 短期大学部
9:15 ～ 9:30	B-2	戦前期YMCAキャンプにおけるグループワークの位置付け	青山鉄兵(文教大学)	50	
9:30 ～ 9:45	B-3	美術教育における自然体験の位置づけ-先行研究の整理-	田中千賀子(武蔵野美術大学)	52	
9:45 ～ 10:00	B-4	伝統知を生かした学びの場から見えたこと	高野孝子(エコプラス/早稲田大学)	54	
10:00 ～ 10:15	B-5	若者の結婚観・子育て観等に関する調査	大嶋 尚史(国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター)	56	
10:15 ～ 10:30	コミュニケーションタイム(セッション全体を通しての質疑応答・ディスカッション)				

10:45 ～ 11:00	B-6	Asia vs. America: The Value of College Adventure Programming for Personal Growth	Siwei Zheng (Kent State University)	58	岡田成弘 仙台大学
11:00 ～ 11:15	B-7	スウェーデンの野外教育に関する考察 -社会的背景をふまえた史的概観および教育課程内容の検討において-	○伊藤相(東京学芸大学大学院)、小森伸一(東京学芸大学)	60	
11:15 ～ 11:30	B-8	A Study of Currency Tourism Based on the Perceptions	Hongyi Xu (Kent State University)	62	
11:30 ～ 11:45	B-9	Images of U.S. National Parks: An International Look	○Philip Wang (Kent State University), Ayako Hayashi, Mai Suizu (Biwako Seikei Sport College), Ayumi Yamawaki (Kanazawa Gakuin University), Chunyan	64	
11:45 ～ 12:00	コミュニケーションタイム(セッション全体を通しての質疑応答・ディスカッション)				

**C会場：センター棟405**

		演題(発表題目)	発表者	掲載頁	座長
9:00 ～ 9:15	C-1	子供の頃の体験がはぐくむ力とその成果に関する調査研究	○青木康太郎・藤江龍・大嶋尚史(国立青少年教育振興機構)	74	蓬田高正 天理大学
9:15 ～ 9:30	C-2	子ども時代の組織キャンプ経験に関する自伝的記憶(1)―記憶特性質問用紙を用いた検討―	○佐藤冬果(TOEL)、井村仁(筑波大学)	76	
9:30 ～ 9:45	C-3	幼児期の海の体験に関する教育効果について―子どもたちの絵から見えるもの―	○齋藤雄(国立若狭湾青少年自然の家)、鈴木悠太(東京工業大学)	78	
9:45 ～ 10:00	C-4	体験ダイビングによるレクリエーション効果に関する調査研究	○加藤淳一・千足耕一(東京海洋大学大学院)	80	
10:00 ～ 10:15	C-5	自然水域における泳力向上のための歴史的考察	山脇あゆみ(金沢学院大学)	82	
10:15 ～ 10:30	コミュニケーションタイム(セッション全体を通しての質疑応答・ディスカッション)				

10:45 ～ 11:00	C-6	大学キャンプ実習における宿泊形態の違いが教育効果に及ぼす影響	○築山泰典(福岡大学)、橋本和俊(びわこ成蹊スポーツ大学)、川畑和也・藤井雅人(福岡大学)	84	徳田真彦 北翔大学
11:00 ～ 11:15	C-7	大学キャンプ実習における指導者と参加者の活動分類認識の違いに関する研究	○川畑和也(福岡大学)、福満博隆(鹿児島大学)、築山泰典(福岡大学)	86	
11:15 ～ 11:30	C-8	大学生の性格特性と社会人基礎力に関する研究	○及川未希生(国立妙高青少年自然の家)、庄子佳吾(国立花山青少年自然の家)	88	
11:30 ～ 11:45	C-9	キャンプカウンセラー体験が大学生の社会人基礎力とソフトスキルに及ぼす効果	○川田泰紀(仙台大学大学院)、矢尾優希(国営みちのく社の湖畔公園)、岡田成弘(仙台大学)	90	
11:45 ～ 12:00	コミュニケーションタイム(セッション全体を通しての質疑応答・ディスカッション)				

**研究発表Ⅲ〈口頭発表〉 6月18日(日) 13:30～15:30**

**A会場：センター棟402**

		演題(発表題目)	発表者	掲載頁	座長
13:30 ～ 13:45	A-10	プロサッカー選手にとってのウィルダネスプログラムの意義及び課題 ―フジアーノ岡山の選手を事例として―	○岡村泰斗(backcountry classroom Inc.)、徳田真彦(北翔大学)、水津真衣(びわこ成蹊スポーツ大学)	40	瀧直也 信州大学
13:45 ～ 14:00	A-11	野外スポーツ実習における食物摂取の評価 ―エネルギー消費量とコンディションとの関連から―	林綾子・武田哲子・水津真委・黒澤毅・中野友博(びわこ成蹊スポーツ大学)	42	
14:00 ～ 14:15	A-12	スノーゲームの身体活動量に関する研究	○徳田真彦(北翔大学)、青木康太郎(国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター)、吉田昌弘・竹田唯史・吉田真(北翔大学)	44	
14:15 ～ 14:30	A-13	バックカントリーでの雪崩事故防止に関する考察	○濱谷弘志(北海道教育大学)、高桑将来(フルマークス)	46	
14:30 ～ 14:45	コミュニケーションタイム(セッション全体を通しての質疑応答・ディスカッション)				

**B会場：センター棟403**

		演題(発表題目)	発表者	掲載頁	座長
13:30 ～ 13:45	B-10	The Beauty of Japan	○Riko Tomiyama・Yurie Shiba (Kent State University)	66	西島大祐 鎌倉女子大学 短期大学部
13:45 ～ 14:00	B-11	Beauty Chongqing and Her Beholders: An Inquiry into Destination Aesthetics	○Chunyan Zhou・Qiaolin Zhou (Chongqing Normal University)	68	
14:00 ～ 14:15	B-12	Observations on the Impressions of the United States of America	○Yurie Shiba・Kazuaki Aya・Riko Tomiyama・Hinako Uehara・Philip Wang (Kent State University)	70	
14:15 ～ 14:30	B-13	山の日における野外教育の意義	中澤朋代(松本大学)	72	
14:30 ～ 14:45	コミュニケーションタイム(セッション全体を通しての質疑応答・ディスカッション)				

**C会場：センター棟405**

		演題(発表題目)	発表者	掲載頁	座長
13:30 ～ 13:45	C-10	遠征型キャンプが小中学生の自然に対する態度に及ぼす効果 ―2年間の調査結果と因子ごとの比較―	○岡田成弘(仙台大学)、坂本昭裕(筑波大学)、川田泰紀、堀松雅博(仙台大学大学院)	92	山田亮 北海道教育 大学
13:45 ～ 14:00	C-11	キャンプ参加者の心理特性とストレスコーピングの選択	○高橋宏斗(大阪体育大学大学院)、伊原久美子・久田竜平(大阪体育大学)、田淵洋勝(大阪体育大学大学院)、土屋裕隆(大阪体育大学)	94	
14:00 ～ 14:15	C-12	YMCAサマーキャンプの効果とその要因	○阪田晃一(神戸YMCA)、岡村泰斗(backcountry classroom Inc.)	96	
14:15 ～ 14:30	C-13	保護者のキャンプに対する心理的抵抗感と養育態度との関連について ―保護者の不安干渉傾向に着目して―	○前川真生子(筑波大学)、坂本昭裕・坂谷充(筑波大学)	98	
14:30 ～ 14:45	コミュニケーションタイム(セッション全体を通しての質疑応答・ディスカッション)				

**研究発表Ⅱ (ポスター形式) 6月18日 (日) 10:00~11:30**

会場: センター棟401

	演題(発表題目)	発表者	掲載頁
P-1	野外教育に関する宗教的儀礼からの考察	張本文昭(沖縄県立芸術大学)	100
P-2	木や森林に関連する教育の研究者・実践者間の交流活動の実践と効果	○井上真理子・大石康彦(森林総合研究所多摩森林科学園)、八巻一成(森林総合研究所)	101
P-3	「森のようちえん」における「アクティブ・ラーニング」および「生活科」とのかかわり	柳原高文(名寄市立大学)	102
P-4	大学生を対象とした農業体験学習における教育効果の検討(4)―面接に基づく心理的変容の検討―	○居崎時江(埼玉県立大学)、谷伊織(東海学園大学)、小島雅生(東海学園大学)、ほしの竜一(東海学園大学)	103
P-5	「北海道若手研修会」の取組 ―北海道アウトドアフォーラムの繋がりから―	○日比野功宜(国立日高青少年自然の家)、松原昇平(NPO法人モモンガくらぶ)	104
P-6	自然体験活動事業実施時の広報チラシの影響に関する一考察 ―初めてキャンプに参加する参加者に焦点を当てて―	○藤江 龍(国立青少年教育振興機構本部)、齋藤 雄(国立若狭湾青少年自然の家)	105
P-7	キャンプが大学生の自己概念に与える影響―キャンプ経験の有無に着目して―	中丸信吾(順天堂大学スポーツ健康科学部)	106
P-8	第二言語学習者におけるチームビルディングアクティビティの展開と影響―Freshmanに着目して―	○江川潤(神田外語大学)、市瀬良行(神田外語大学)、小関清美(神田外語大学)	107
P-9	不登校経験者に対する自然を活用した自立教育の効果―H高等学校の取り組みからみた事例研究―	○中嶋優友・上野和之(広島工業大学高等学校)	108
P-10	継続的なクライミング実践から女子大学生は何を学ぶのか―ふりかえりシートの分析から―	井上望(駿河台大学)	109
P-11	玉川大学における野外教育カナダ演習の試み ―プログラム創設から将来に向けて―	村井伸二(玉川大学TAPセンター)	110
P-12	野外教育を可視化する ―教育と風土の概念整理に基づく二次元マッピングの試み―	○土方圭(明治大学法学部)、張本文昭(沖縄県立芸術大学)	111
P-13	大学キャンプ実習における学生の学び	○向後佑香(筑波技術大学)、坂本昭輔・坂谷充(筑波大学)、大友あかね(茨城県立水戸豊学校)	112
P-14	海洋野外スポーツ実習が大学生のヒューマンコミュニティ創成マインドに与える影響 ～参加者属性・プログラム・運営体制の違いに着目して～	○横山誠、高見彰(大阪国際大学)	113
P-15	スノーケリング初級者における膝伸展筋力と25Mフィン泳の関係	○小泉和史(日本体育大学)、高野修(東京海洋大学大学院)、千足耕一(東京海洋大学)	114
P-16	登山愛好者のレクリエーション専門志向化と主観的幸福感・レジャー満足度の関係性	○松本秀夫(東海大学)、福田浩輔(共同エンジニアリング)、千足耕一(東京海洋大学学術研究院)	115
P-17	海辺の自然体験活動がライフスキル獲得に及ぼす影響	千足耕一(東京海洋大学)、蓬郷尚代(東京海洋大学博士研究員)、松本秀夫(東海大学)	116
P-18	青少年の「生活体験」と「自然体験」が「道徳観・正義感」、「自立的行動習慣」、「自己肯定感」に及ぼす影響	○永島昇太郎(帝京大学)、千足耕一(東京海洋大学)	117
P-19	「しまなみウォーク」の試み ― 定量的分析と質的分析から―	○楠堀誠司(県立広島大学)、金山健一(神戸親和女子大学)、石川国広(東京工業大学)	118
P-20	スノーケリングにおけるヒヤリ・ハット調査―スノーケリング指導者およびガイドを対象として―	○高野修(東京海洋大学大学院)、千足耕一(東京海洋大学)、小泉和史(日本体育大学)	119
P-21	体験学習サイクルのスパイラルアップと参加者の「体験的な学び」をより深化させる「学業支援ツール」の開発とその活用事例―リフレクションと自己対峙の充実を目指して―	○石川国広(東京工業大学)、布目靖則(中央大学)、楠堀誠司(県立広島大学)、関 智子(帝塚山大学)	120

**実践報告(ポスター形式) 6月18日 (日) 10:00~11:30**

会場: センター棟401

	演題(発表題目)	発表者	掲載頁
R-1	北海道教育大学釧路校におけるJICA研修員と学生との交流 ―東北道のエクスカッションを通して―	○渡辺裕太・福一紀(北海道教育大学大学院)、諫山邦子(北海道教育大学釧路校)	122
R-2	在外研究員制度によるノルウェー滞在報告	Satoshi TADA(Meiji University)	122
R-3	Planning and Running an International Congress: A case of the 6th Asia Oceania Camping Congress	Masako Harigaya(Meiji University)	123
R-4	冒険教育指導者育成プログラムでの指導者養成の実践報告―JALT(Japan Adventure Leadership Training)を語る―	○田中誉人・中村優佑(公益財団法人日本アウトワード・バウンド協会)	123
R-5	発達障害のある児童・生徒を対象とした野外教育プログラムの事例報告 ―6年間の実践から―	野口和行(慶應義塾大学)	124
R-6	幼児教育におけるESDの実践～おのまわわかばたんけんたいの取り組み～	柴田卓(郡山女子大学短期大学部)	124
R-7	Stand Up Paddleの魅力や課題について ―琵琶湖を活用した駅伝イベントでの取り組み―	○橋本和俊・黒澤毅・水津真委(びわこ成蹊スポーツ大学)	125